

---

# 壊れたもの

岸川 露

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

壊れたもの

### 【Zコード】

Z1595Z

### 【作者名】

岸川 澄

### 【あらすじ】

「そう、最初から必要なかつたのよ・・・  
宮野志保の頭脳なんて・・・」

「わるい人間を罰して何がいけないの?  
うふふふつ・・・

この女はたくさんの人間を殺したの!生きてない方がいいのよ!」

「愛してるよ・・・哀」

「消えちまえつ・・・!」

あの奇妙な出来事から一年・・・

半年前・つまり出来事の半年後、組織の陣地を見つけ、乗り込んだ。

ただし、幹部のジンの手によりすべてを闇に葬られた・・・  
それも、すべての「コンピューターを爆破する」という残忍な方法で・・・  
奇跡的に助かつた二人

「僕たちは、犯罪者と友達になつた覚えなんてありません！」  
「そうだよつ！私たち少年探偵団だもん！犯罪者と友達になんか、  
なれない！」

周りにいたすべての人間が避けるようになった・・・

そう、「犯罪者」という肩書きのせいで。

世界規模で放送された事実はむごいものだった

20年前、天才とはこの人間だと言っていた、宮野厚司  
その人物がある恐ろしい組織にいた事が発覚  
しかもその娘、富野志保が研究を受け継ぎ、恐ろしき薬を開発して  
しまつたという事も・・・  
その富野志保は今灰原哀という名前で姿をかたを変え、この世での  
うのうと暮らしていると報道された  
みなが哀から避け始めた  
みなが逃げていく・・・  
でも・・その中で助けてくれたのは・・?

「うめんなさい・・・うめんなさい・」

一  
も  
う  
い  
い  
が  
・  
「

一 もう 終わったんだ

すべて

そう・・すべてが終わつたんだよ・・

「これで俺の人生も、組織もおわる・・・」

「シハセリハリの細纖」・・・?」

「俺は両親の顔も知らない

生れてすぐ這辺に捨てられた  
相当の田舎で、吹雪の日だったから、凍え死にかけてたところを、

結構可愛がつてもらつたよ、それも普通のガキ以上に

その代償としてこの組織で、人殺し（殺人者）として生きろといわ

れた

なんでもしたよ・・あの方のためなら・・

何の記憶も無い俺の頭の隅にあるのは、寒く冷たい雪に包まれた事  
その中から伸びてきた手は確かに暖かく、俺を心配そうな田（瞳）  
で包んだ

死んでもこの人の言つ事を聞かなければいけないと信じた  
そして今ここにいる

もしあの方があの時通らなかつたら、俺は今ここに存在しないんだ  
俺が死んでもあの方は守る「

「じ・・ん・・」

「だがそれも終わりだ・・

あの方がお望みになつたこの組織ももつ修復不可  
もう、終わりだ」「

「それはつ・・」

「シェリー、お前に関するデータが大量に入ったメールが、送られ  
るんだよ

警視庁にこのボタンを押すとな」

「あなたがそれを押したところで私が逮捕されるだけ  
その前にあなたは確実に死ぬわ」

「しかも高性能付き那門でこのボタンを押すとの組織の建物にあ  
るすべてのコンピューターのデータが吹っ飛ぶんだ

空氣中に

「そんな事をしたら一体どうなることか・・

このボタンをおし、あのデータが吹っ飛んだら・・すべてが闇に葬  
られてしまつわ・・」

「そうだ・  
あの方の遺言でいくと、もし自分の死後、組織が安全に保たれない  
のであれば、すべてのデータを消し、自分のすべての希望を捨てて  
欲しいという事だ」

「ダメよつ・・ジン!」

「あばよ、シヒリー」

「でも・・もう何も・・何も戻せない・・

「戻さなくていい・・戦うんだよ・・

「学校は、休もう・・・」

「・・ええ・・・」

ピンポーン

インター ホンのベルが鳴り、出でみると、そこにいたのは警部、佐藤刑事、高木刑事だつた

「え・・・」

「今日は君たちに話がある

入つてもいいかね?」

「ここには博士の家だからわかんないなあ」と言いたいところだつたのに、入つてこられた

「哀、逃げろつ・・・」

「え・・・」

「動かないでもらえるかな?」

「はい」

「哀つ！」

「いいの」

「今日は・・2ヶ月前警視庁の本部のメールに来たメールの話だ  
中には、二ヶ月ほど前に起きた、『黒の組織大爆破事件』の裏世界  
のある人物についてだった

その中でその人物の名前は、『シェリー』と書かれている。

どうやらその人物の本名は、宮野志保という女性らしい

今は18歳だそうだ。

だがな、その女性の顔写真はそのなかにあつたのだが、君にとても  
似ていたんだよ・・哀君

「つ・・・」

・ そういつた警部の会図で、高木刑事がクリックをして見せてくれた・

その女性の顔立ちは、哀と瓜二つ

簡単に言えばこの画像は彼女の将来とでも言えるのだつた

美人な顔立ちだが、タートルの上に白衣すがた

何かの証明写真のようなものだった

「そしてこの文章の中にはかかれていた

20年前天才と言われていた科学者、博士号も手に入れている富野厚司の娘、富野志保は、ここ数ヶ月の間に、彼女自身が開発したAPT-X 4869という薬品を飲み、体が幼児化して、組織から脱出誰かに匿われ、どうやら灰原哀という名前で小学一年生をす「」していると・・

このことに関して、これ以上のことは書かれていなかつたが、君の事で間違いないだろ？

灰原なんて苗字、君以外いないからな・・

「つ・・・・

そう・・・です・・

「哀、だめだつ・・・・」

「富野志保は私です

富野厚司は私の父です

APT-Xを飲んで幼児化して、ここに匿つてもうつてますー」

「だとしたら、君は逮捕される事になるんだ

「わかつてます！…」

「哀つ！

ちがつ・・哀は殺されると脅されてやつただけだ・・

「ただし、このことをあの事件に闇<sup>くろ</sup>していたFBIに伝へねど、  
彼女の事は逮捕も起訴もさせないといつていた

FBIがそつといつているため、われわれは君に手を出さない

灰原哀さんにはな

宮野志保さんは、どうなるかわからぬい・・

「ナン<sup>な</sup>君のことも調べさせてもらひた

説明は面倒なんで、やめとくが

「はい・・・・・」

「ただし、問題は・・・」

「・・・・?」

「組織の誰かが警視庁にメールを送ったのと同時に、マスク<sup>マスク</sup>も  
売られていたよつで・・・」

「そんな・・・・」

「20年前天才と言われた富野厚司の娘、富野志保が2ヶ月前に起きた爆破事件の組織に関与していた事が発覚しました

彼女は数ヶ月ずっと行方をくらませているのです

ところの事で、富野志保さんは、 昨夜、国際指名手配されました  
富野志保さんの顔写真がこちらです

「嘘ツ・・・」

「警部・・・どうしてこんな事こ・・・」

顔写真なんかを報道されたら、ばれてしまう

富野志保＝灰原哀と

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1595z/>

---

壊れたもの

2011年12月5日20時10分発行